



「ちいろば開園35年」

ちいろば会理事長 大澤 星一

1989年の初夏、西大和教会の裏庭から始まった福祉作業所ちいろば園の歩みも、2000年の現在の地への移転や社会福祉法人格の取得を経て、今年35年目となった。僕は2006年の春から西大和教会の牧師、愛の園幼稚園の園長となったが、沖縄から初めて来た時、高見牧師が勢野北のちいろば園まで連れて来てくれた。今でこそイーストヒルズと呼ばれた住宅地が広がっているが、当時はまだ整地もされていなくて、山を切り拓いたばかりの荒野のようなところだった。寒い1月の日で、冷たい風がその荒野のような丘をぴゅーぴゅー吹いていた。でも、そこで働いていた人たちの心は熱く、そこに集まってくる人たちは、それぞれ課題を抱えてはいるけれど穏やで、そこは共に生きる社会を創造しようという想いで溢れていたように思う。それは西大和教会と愛の園の裏庭で始まったプレハブ二階建ての福祉作業所ちいろば園でも同じだったと思う。

そのちいろばを生み出した愛の園は今年創立60年、西大和教会は今年創立69年(西大和教会の数え方では今年は68年と数える)になる。

大事なことは何年経ったかということよりも、それぞれ想いや夢や目標をもって始めたことがどれだけ達成できているかということだ。確かにこれまでの間、それぞれの働きを続けることが出来たことは、神の守りと導きによるものであり、またその神が用いた多くの人たちの支えと力によるものであり、それは、ただただ感謝でしかない。理事長の古館さん、高見先生、まり子先生、木ノ脇先生、そして召されていった仲間たちの顔が浮かぶ。改めて考えなければいけないことは、開所から35年経って、はたして私たちのこの社会が、障害のある人もない人も共に生きることが出来る社会になっているかということだ。35年経ってもまだまだ私たちの社会の状況はあまり変わっていないのではないかと思う。

共に生きる社会を創造する。それは決して生業とか飯を食うためだけでやっていても決してできない。そこにはやっぱりこれまでの先輩たちが歩んできた奉仕という利他の精神がなければ出来ないだろう。

マタイによる福音書25章40節のイエスの言葉を思う。「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」。

神さまのためだから、というわけではない。でも、私たちの社会の中で小さくされた者のためにすることが、平和な社会を創り出すのだということを心に留めて歩みたい。

しよっちゅう一緒に過ごしていたら・・・

ちいろば園 主任 奥田 陽子

夏休みが始まった頃、近所に住む二人の小学生がちいろばのお店に駄菓子を買いに来てくれました。外で遊ぶのは暑いからちいろば園の中を見学したいと言うので、いいよーと返事をしました。二人はきちんと挨拶をしながら順に部屋をのぞき、2階の作業室へ。ちいろばまつりの準備(制作活動)をしている利用者さんたちの中に混じって一緒に制作することに。子どもたちはすぐに溶け込んでいきます。一人の子がYさんの乗っている車椅子に興味をもち、少しうしろへ引っ張りました。Yさんは「あー！びっくりするやん。ブレーキ、ここやで。これ。」と二人に教えてあげます。子どもたちは今度はゆっくりとYさんの車椅子を押したりブレーキを触らせてもらったりして、Yさんもうれしそうでした。地域のみなさんにちいろば園の存在や障害をもつ人の存在を認知してもらうことの重要性、私たち支援者の役割を再認識した出来事でした。

ちょうどその頃、法人の研修会で45年前(1979年)放映のNHKドラマ「男たちの旅路—車輪の歩—」を鑑賞しました。鶴田浩二さん演じるガードマンが車椅子の青年たちに投げかけたセリフがあります。「もっと外をどんどん歩いて、君たち(障害者)をまちのあちこちでしよっちゅう見ていたら、並の人間の対応の仕方も違ってくるんじゃないだろうか。たまに会うだけだと敬遠してしまうが、しよっちゅう見ていたらもっと何気なく手伝うことができるんじゃないだろうか。並の人間とは違う人生、そのことをしっかり認め合う必要があるんじゃないか。世話になるのは当然なんだ、手伝うのが当然のことなんだと世間に思わせてしまう必要があるんじゃないだろうか。」

まさに私たちが大切にしていることだと共感しました。

ちいろば園では利用者のみなさんの送迎はしていますが、自宅までは行きません。だからこそ、自宅から送迎車の乗降場所までに、個々の利用者と地域のみなさんとの間にいろんな接点、出会いが生まれます。

「そちらに通っている女性が、置きっぱなしの買い物カートをいつも片付けてくれるんですよ！」と駅前のスーパーの店員さんからお礼の電話をいただいたことがあります。

「いつもコピー機を使いにくる方、今朝財布を置き忘れていたから預かっておきますね。帰りに取りに寄ってと伝えて下さいね。」とコンビニの店員さんからも連絡がありました。

駅の改札ではリュックサックにぶらさげた定期券をタッチすることなく顔パスで通らせてもらっている利用者さんも。

近くのケーキ屋さんからは、「いつも帰りに寄り道して、お水飲んで行かれますよ」と、苦言も…。つい先日とも体調が悪くなった利用者の方と、送迎車が着くまで一緒に待って下さった地域の方がいたり、ちいろば園利用者のみなさんが地域の中で暮らしている姿が想像できます。

しかし一方では、特別支援学校、特別支援学級、就労継続支援A型事業、大規模なグループホーム等、障害をもつ人たちだけの特別な場が増えました。先のドラマのセリフにあるような、障害のある人となない人が「しよっちゅう」一緒に過ごす時間が増えたのではなく、「しよっちゅう」見ることのない場に分けることが世の中の仕組みとして増えてしまったのです。

ちいろばのお店に駄菓子を買いに来てくれる子どもたちの中には、計算が得意ですぐに支払いができる子もいれば苦手な子もいます。苦手だから「できない」からといって特別に分けられた場で「できる」ようになるのではなく、「しよっちゅう」一緒に過ごす中で、学校の友だちやまちの人が何気なく手伝ってくれて「できる」。そうであってほしいと願います。45年前のドラマのセリフ、みなさんはどんなふうに感じますか？

— ぼくも わたしも みんなが^{しゅやく}主役 —

- 質問① ^{なまえ}名前と^{ねんれい}年齢は？
- 質問② ^{いま}今はだれとどこで^{くら}暮らしていますか。
- 質問③ ^{かぞく}家族にまつわるエピソードは？
- 質問④ ^{がっこう}学校、^{しゅうろうじだい}就労時代のエピソードは？
- 質問⑤ ^{さいきん}最近^き気になっていること、^{きょうみ}興味があることは？

① ^{たにの}谷野 ^{ゆうと}裕悟 41歳です。

② ^{とう}お父さん、^{かあ}お母さんと^{じゅうか}実家で^{くら}暮らしています。

③ ^{かしはら}檜原のイオンに行くのを^{たの}楽しみにしています。

^{ゆびわ}指輪や^かシュークリームを^か買います。

④ ^{さんごうちゅうがっこう}三郷中学校では^{だんし}男子の^{ともだち}友達がいて^{たの}楽しかったです。その^{ともだち}友達と^{しゃしんぶ}写真部に^{はい}入り、^{でんしゃ}電車の^の乗って^{おおさか}大阪の^{べんてんちやう}弁天町まで^{しゃしん}写真を撮りに^いいったことが^{よい}良い思い出です。

^{ちいろば}ちいろば園の^{えん}実習で^{じっしゅう}ミサト履物協同組合に^{はきものきようどうくみあい}5か月^{げつ}行きました。^{いそが}忙しかったけど、^{はたら}働いている^{おじさん}おじさん、^{おばさん}おばさんが^{やさ}優しくしたので^{たの}楽しかったです。

⑤ ^{たからづか}宝塚の^みショーを^く観ること、^{くるま}トミカの^{あつ}車を^{しゅみ}集めるのが^{しゅみ}趣味です。

^{りよう}ヘルパーを利用して^{がいしゅつ}外出してみたいなあと^{おも}と思っています。



① ^{ながお}長尾 ^{よしこ}良子 39歳です。

② グループホーム「エンゼルハウス」で^{くら}暮らしています。

^{きせい}帰省する^{とき}時は、^{りやうしん}両親のいる^{じゅうか}実家で^す過ごします。

③ ^{ことし}今年の5月に^{がつ}甥っ子が^{おい}生まれました。^こ抱っこすると^だにっこり^{えがお}笑顔を見せ^みてくれて^{うれ}嬉しいです。

④ ^{にかいどう}二階堂^{ようごがっこう}養護学校の^{とき}時、^{かみ}紙すきや^{ちやうりじっしゅう}調理実習をしたのが^{たの}楽しかったです。

⑤ ^{おおずちう}大相撲の^{あきばしよ}秋場所で^{おお}大の^{さとばき}里閥に^{ちゅうちく}注目しています。

^{しょくひんせい}食品製菓のお^{かしづく}菓子作り、^{おかず}おかず作りは^つやりがいがあるの^がので^{がんば}これからも^{がんば}頑張りたいです。

^{りようごう}旅行に行^いって^た食べ^{ある}歩き、^{おんせん}温泉を^{たの}楽しみたいです。



※8月8日加藤さんにお越しいただき、ちいろば園で4回目になる「絵の本ひろば」を開催しました・・・

ちいろば園で わいわい 絵の本ひろば

絵の本あれこれ研究家 加藤 啓子

30年ほど前の話。自閉症の子を図書館のお話会に連れて行ったお母さんに当時の司書さんは「静かに聞けない子は退席して…」と伝えられたという。

そのお母さんは明るく前向きな方。「断られてもまた連れていってん」と笑っていた。

その子が通うようになったちいろば園の設立母体の幼稚園で保護者と先生に向けて絵本の講座をさせてもらった。富田さんに初めてお会いしたのはその時。……

その子とは塚本亮介さん。現在電車を乗り継いで作業所に通い奈良マラソンにも毎回参加。興味ある場所イベントには名古屋くらいならひとりで行く。ちいろば園とご縁のあるお仲間。

……それから長い月日が経ち昨年のちいろばまつりの「絵の本ひろば」に繋がった。……



各地各所でいろんな行事イベントがあってもそこへ出かけるのに支障のある人はずっと参加できないままなのだろうか？ それがあることすら知らされていないのでは？？ それならそのひと達のところへ出かければいいんだと「絵の本ひろば」は本と面展台を持って出かけている。そのひと達のいる現地現場のひろば。

開始時間も終了時間もなんとなくアバウトでOK。メンバーさんが車から荷物を降ろして面展台を組み立て本を並べる。

300冊ほどの本は絵や写真が主流。文字を読むのではなく絵を読む。ちゃんと読まなくてもいい途中でやめてもパラパラとめくるだけでもOK。



食べ物 風景 動物の写真本が多く「どっち食べたい？」「どっち行きたい？」そこにはおしゃべりのきっかけが あってとても賑やか。



ちいろばまつりだけでなくちいろば園での余暇活動おまけのイベントとして不定期に開催中。

※ちいろばまつりでは飛鳥・檀原ユネスコ協会さんから本面展台などをお借りしています

「グループホームの職員しよくいん やくわりの役割について」グループホーム職員しよくいん 忠澤 美緒ちゅうざわ みお

現在ちいろば会には三郷町さんこうちやうない内に5ヶ所のグループホームがあります。私わたしは主おもにその中の「すみれ荘すみれ しょう」と「エンゼルハウス」という二つのグループホームで生活支援員せいかつしえんいんとして働はたらいています。

「すみれ荘すみれ しょう」には6人の利用者さんが生活せいかつされていて、夕方ゆうがたになるとちいろば園えんでの作業さぎようを終えて帰かえってこられます。まずは手洗い、うがい、検温、水分補給すいぶんほきゅうをしてから順番じゆんばんにお風呂ふろと翌日よくじつの準備じゆんびをします。これらの一連の動作いちれん どうさにおいても利用者さんによって支援は違ってきます。自分でパジャマやバスタオル、下着、翌日よくじつの洋服ようふくなどをカゴに準備じゆんびできる利用者さんりようしゃもいれば、それが困難こんなんな利用者さんには支援者しえんしゃが選んだ衣類えらの中から決めてもらうようにしています。利用者さんりようしゃがお気に入りの洋服き いを「明日あしたどうしても着ていきたい！」と言われた時ときでも、季節きせつや気温きおんによっては変えてもらわなければいけない場合ばあいもあります。そんな時はきちんと理由りゆうを説明せつめいして別の洋服べつ ようふくを着てもらうよう支援しえんしています。もちろんいつも納得なっとくしてもらえるわけではありませんが、今回は前回こんかいとは違う伝え方ちが つたや提案かた ていあんを試みようと日々ひ ひ考えています。

グループホームでの平日の夕食ゆうしょくは食品製菓グループしよくひんせいの利用者さんが作つくってくれています。「エンゼルハウス」では、お箸はしの準備じゆんびやご飯はんをよそう、食器洗いしよくきあらなど家事かじに参加さんかできるように支援しえんをしています。まだまだリスクはありますがコロナも落ち着いてきたので、ただ黙々と食べるだけではなく楽しく会話かいわもできるようになってきました。食品製菓グループしよくひんせいの利用者さんには「今日はこのメニューの中で何をなにか作つくったんですか？」など、日中にちちゆうの作業さぎようの様子ようすも聞きながら楽しい食事きの時間たのになるよう心掛けています。

グループホームは共同生活きやうどうせいなので、もちろん守らなければいけないルールがあります。例えば入浴たと にゆうよく時間じかんや就寝時間しゅうしんじかんなどです。決められた入浴時間にゆうよくじかんを過ぎても出てこないなど様々なことが起こります。タイマーをセットしてもらい事前じぜんに声掛けこえかをしていますが、最初さいしょは「早く出てください」など指示しじばかりの支援しえんでした。どこまで声掛けこえかをしたらいいんだろうと悩んだ時期なやもありました。入職にゆうしょくして丸二年まるにねんがたった今は少しずつですが支援しえんの「引き出し」も増えてきたと思います。

利用者さんの行動りようしゃ こうどうや不安ふあんな気持ちきもちには必ず理由かなら りゆうがあると教おそわりました。どうしてなんだろう？とまずは利用者さんりようしゃの気持ちきもちに寄り添いながら、受け入れて良い距離感きよりかんで支援しえんしていけたらと思っています。そして利用者さんにとってホッとできるような、笑顔えがおで過ごせるような場所ばしょにしていきたいです。



かいほうじんしよくいん か き けんしゅうほうこく
～ちいろば会法人職員夏季研修報告～

今年度は、「障害者差別に学ぶ」をテーマに 3 回の連続講座を計画しています。

第 1 回目は、1979 年に NHK で放映された山田太一さん脚本のドラマ「男たちの旅路／車輪の一步」を観賞しました。

ドラマは 45 年前のもの。車椅子障害者達が階段等に苦しみ投げやりになり、人が行き交うビルフロアにたむろする。当初「迷惑」と受け止めた警備員が、障害者の現実に触れ寄り添う中で「迷惑をかけても良いのではないか」という感情を抱く。親切さに心が動いたが、人間誰でもそんな本性、手を取り合い共同して生きるという本能を持っている。この当時、脳性マヒ者組織「青い芝の会」の運動に私も支援者として関わり、当時エレベーターがない地下鉄の階段で不特定多数の人々に声を掛け車椅子の上り下りを手伝ってもらった。みんな案外応えてくれた。また、川崎市で乗車拒否され、障害者達が集団でバスに乗り込む抗議行動を私も支援したが、しかし、そうしたことを「迷惑」だと受け止めたり、見て見ぬふりをする社会的意識があることも確かだ。人間の本性である「共同」の精神が今の社会では抑圧され、奪われている。古代奴隷制、中世封建制から解放され、「自由、平等、博愛」の精神で「人に迷惑をかけさせなければ良い。お互い自由に平等に競争し自らの幸福を追求しようとなった。そして人の世話になる、手を借りるということが、否定的に捉えられることになった。

エレベーターが設置され奈良でもノンステップバスが走り、条例で「合理的配慮」を求められれば誰でも応じるよう法整備されたものの、障害者に対する目は返って冷たく感じると研修で感想も出された。私は、日常生活、経済的活動において「専門職」に限らず誰でも「共に生きる」という本来の共同原理が復活するよう社会システム、資本主義の根本を問い直し克服していかなければならないと改めて感じた。

グループホーム職員 増田 広正

私は今年の 5 月からちいろば園に入職し、今回初めて法人職員夏季研修を受けました。

「車輪の一步」を鑑賞した感想は、45 年前の世間の雰囲気や街並みの様子は現在とはだいぶ様変わりしたものの、障害をもった人達を取り巻く環境はほぼ変わっていないことがよくわかりました。自分たちが普通にしてきたことが、障害を持つ人にとっては、したくてもできない、世間の見えない重圧に押し潰されて、常に生きづらさを感じながら日々を過ごしていることを痛感しました。一番印象に残ったシーンは、全員車椅子の友人達で外出した際に、踏切で動けなくなり、自分達だけでは助けられなかった所です。その後は意気消沈し、皆、無言で帰路につく場面に何とも言えない気持ちで胸が痛くなりました。

また、条約や憲法で障害者における差別からの脱却など、形式の上では掲げられていますが、現実にはなかなか変わっていない実状も知りました。富田施設長の講話も聞く中で、現状を変えていくのも障害をもった人達からの発信が大切で、身近にいる私たち支援者がそれをサポートし、共に行動することが必要だと思いました。

今後の私の課題としましては、日々先輩方に教わりながら、知識を習得し、利用者の皆さんがどうすれば何の不安もなく、不自由もなく過ごせるか、作業できるのか考え、「合理的配慮」を常に念頭に置いて行動しようと思います。

ちいろば園職員 佐藤 菜月



らいねん

来年は、あなたもブルーベリーオーナーに！！

ちいろば園では、毎年、ちいろば園で栽培しているブルーベリーの株1本～を選んで、収穫時期に突ったブルーベリーを自由に収穫していただける「ブルーベリーオーナー」を募集しています。今年も9組の方々から申込みいただき、ブルーベリーの収穫を楽しんでいただきました。

次年度からは、オーナー価格をよりお手頃な価格へ引き下げ、もっと多くの方々にオーナーになってブルーベリーを収穫し味わっていただけるようにしたいと考えています。そこで、参考までに今年、オーナーになっていたみなさまから、オーナーになった感想や収穫したブルーベリーの活用法などの声をお訊きしてみました。



＜斑鳩町在住 藤本 守 様＞

この企画、2016年に始まって以来ずっとオーナーをさせていただいています。幸い毎年豊作で、昨年は合計7kgと最高の収穫でしたし、今年も良い木に当たり、合計は昨年より少し少ない5kgでした。が、今年は以前よりもずっと粒がおおきく、とても甘い味がたくさん収穫出来ました。なので、毎年夏のこの時期は毎日ブルーベリーをいただいています。おいしいですよ。収穫があった日は親戚、友人へもおすそ分け。「美味しいね、甘いね、ありがとう」って。そうそう、いつも野菜を頂いているご近所さんへも私たちができる唯一の「自然の恵み」のお返しにもなっています。毎年充分に元は取らせていただいています。ちいろば園の園生の方、職員さんが日頃から丁寧に育てていただいているおかげですね。毎年7月に入ると、ちいろば園から「摘みに来てください」と連絡があります。我家では、週1回でいたい週末の金曜日から土曜日の早朝にお伺いしております。初めのころは昼前に収穫に行き、汗だくのまま、ちいろば園内の喫茶ドンキーでランチという毎週一度の楽しみもしていましたが、コロナでドンキーが開けない時期があり、以後は毎週末の早朝になりました。ひとつには「ブルーベリーの木が夜中に甘さを実に蓄え、日中は甘さを消費するので朝早いうちに摘みに来た方が良い」とお聞きしたからでもあります。当たり前のことですが、ブルーベリーは目など健康に良く、とても甘くておいしいです。実っている木から直接摘むので新鮮そのもの、もちろん無農薬なので安心。これが一番！！やはり収穫という結果とその喜びを得られるというのは特権だと思います。高齢になりましたが、足腰がしっかりできていいるうちは毎年、この特権を利用して、美味しいブルーベリーをいっぱい摘んで、食べてを楽しむに生きる喜びのひとつにしたいと思っています。



＜いこま福祉会 様＞

今回ちいろば園さんからお声掛けいただき、ブルーベリーの木のオーナー権を10株購入して、いこま福祉会のメンバーとスタッフで、ブルーベリーの収穫を行いました。収穫時期が7、8月と非常に暑い中でしたが、素手で簡単に収穫することができ、色の判断も分かりやすいので、幅広いメンバーが参加することが出来ました。メンバー、スタッフ共に初めての作業でしたが、収穫していくうちにカゴが一杯になっていくのが達成感や楽しさに繋がり、暑さを忘れて作業をすることもありました。メンバーからは「普段食べているブルーベリーがあんな風に木になっていることがわかって勉強になった」「手で簡単に取れて、立ちながらの作業だったのでやり易かった」「たくさんとれた！」などいい感想がたくさん聞けました。スタッフからは「駐車スペースの横に農園があったので、分かりやすく安全に移動できた」「ハサミなどの道具を使わずに収穫出来たので、心配なく安全に取り組めた」とスタッフもメンバーと共に安心して楽しく作業を行うことが出来ました。勾配が急な所もあり、足元の不安を感じるメンバーさんもおられました。スタッフやメンバー同士で手を取り合って収穫しました。今回初めての取り組みで最初は不安もありましたが、ちいろば園さんのスタッフの方々や利用者様が明るく挨拶をしてくださったり、収穫しやすい通路側のブルーベリーの木の準備や施設内のトイレ等を使わせていただけたので、安心して楽しくそして気持ちよく作業することが出来ました。喫茶でも休憩させていただきましたが、その際に注文したブルーベリージュースがとても美味しかったです！

来年度もぜひメンバーさんの作業の一つとして取り組みたいと思いました！

今回、収穫したブルーベリーはジャムやカップケーキ、喫茶のランチとして使用しております。

☆^{こうえんかいひ}後援会費・^{ねんかんこうどくりよう}ちいろばだより年間購読料 (2024年6月1日～2024年7月31日)

^{きようりよく}ご協力ありがとうございました。

篠原範子、胡内まさみ、堀内俊文、河野まり子、岡林千恵子、川端邦芳、片山雄太、北飯史子、西村恭子、田中廣子、窪田義廣、西村好夫、長谷川多鶴子、本間結子、岡本啓子、藤井博次、大江耕平、東千晶、中島佳代子、由良禮子、木村和子、中村千賀子、堀智晴、長尾良子、前平正恭、西田久美子、平山恵理、石川徹、阿波宏晃、梅野玲子、吉岡るり、小川洋子、谷野裕悟、小倉奈々、濱野由利子、高見良平、山田援・歩、坂本友希、木村朋子、木村好司、竹下由里子、西村周也、藤原智久、辰巳普宣、吉岡佳菜、黒川正通、梅田敬子、石原慎也、吉井紗英、森川佳紀、梶原拓馬、藤本千絵、忠澤美緒、高橋沙耶香、菅野努、山下淳一、加地まさ子、田中謙輔、窪美代子、横山文吾、瞿曇留美、松本敬子、新宮由士

^{いじよう}以上 ^{けいしやう}敬称は略させていただきます。

^{かい}ちいろば会^{あんない}クリスマスコンサートのご案内

^{こうれい}恒例のクリスマスコンサートの^{にいてい}日程と^{がいよう}概要が^{けつてい}決定しました。

^ひ日にち : 2024年^{ねん}12月^{がつ}14日^{にち} (土) ^ど午後

～タイトル～

「^{ふたり}2人の^{れんだん}チェンバリストによる^{きよく}チェンバロ連弾と^{とき}フアンクラヴサン曲のひと時」

★ スィーツセット チケット ^{おとな}大人 : 1,200円 ^{えん}

^{しょうがくせい}こども (小学生以下) : 1,000円 ^{えん}

^{しょうさい}詳細は次号のちいろばだより、ホームページ等でお知らせします。

^{まえうり}前売り券の^{はんばい}販売はちいろば園で^{えん}行います。

^{ほんかくてき}本格的な^{おんがく}バロック音楽をお^{たの}楽しみいただけるこの^{きかい}機会、

^{ぜひ}是非、ご^{さんか}参加ください



KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年 6 回 頒価 50 円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北 5 - 6 - 1 4

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町 2 - 2 東興ビル 4 F